

2014年4月1日

日本物理学会理事会、領域員会のみなさま

日本物理学会会員 田崎 晴明\*1

### 第69会年次大会の「物理と社会」シンポジウム採択経緯に関する質問と要望

いつも日本物理学会のためにご尽力いただきありがとうございます。物理学会会員の田崎晴明と申します。

私は、先日の年次大会での「物理と社会」シンポジウム『3年後の福島～今どうなっているのか～』で講演いたしました。お陰様でシンポジウムは成功に終わりました。ありがとうございます。ただし、残念なことです。採択の経緯について納得できない点があり、この「質問と要望」を書いております。

私がシンポジウムでの講演を依頼されたのは昨年12月3日という遅い時期でした。しかも、世話人は12月7日までに講演者を決定して学会に報告しなくてはならないというぎりぎりのタイミングで、私が講演を断ればシンポジウムの実施そのものが危ぶまれる状況でした。これは明らかに異常な事態です。そして、世話人等から入手した情報をもとに判断する限り、このような事態を生んだのは学会側の誤った判断だったと考えざるを得ません。

物理学会におけるシンポジウムの運営ができるかぎり公平に行なわれなければならないことは言うまでもないと思います。今回、もし（私が考えるように）学会側に不手際があったとすれば、二度と類似の間違いをくり返さないよう、そのことを記録に留めておくべきだと考えます。

お忙しいところにお手間をおかけするのは恐縮ですが、以下をご覧くださいご回答をいただければと思います。

よろしく願います\*2。

---

\*1 所属：学習院大学理学部、連絡先：hal.tasaki@gakushuin.ac.jp

\*2 なお、この「質問と要望」の趣旨は、物理学会の一般の会員ができるかぎり公平にシンポジウムの企画に参加できる環境を作ることですので、全文を以下のwebページで公開いたします。また、いただいた回答も同じページで公開させていただきます。

<http://www.gakushuin.ac.jp/~881791/misc/symposium2014.html>

■**基本的な事実関係** まず、基本的な事実関係を整理する。

私が講演したシンポジウム『3年後の福島～今どうなっているのか～』（以下では、提案者の名前をつけ「原科シンポジウム」と略す）の当初の計画では、早野龍五氏が講演することになっていた。一方、第69回年次大会では、別の「物理と社会」シンポジウム『福島第一原発事故への学術の関わり～3年間の活動と今後』（理事会提案なので、以下では、「理事会シンポジウム」と略す）が企画されており、早野氏はそちらのシンポジウムでも講演予定者となっていた。

特別の理由がない限り一人の人物が複数の「物理と社会」シンポジウムには登壇できないという規則があるため、(二つのシンポジウムがどちらも開催されるなら)早野氏はいずれか一方でしか講演できないことになる。早野氏は(より早くから依頼を受けていたという)理事会シンポジウムで講演することを選択し、早野氏の「代役」として私(田崎晴明)に原科シンポジウムでの講演依頼があった。

この流れそのものに問題はない。尋常でないのは事の実経緯である。

■**経緯** 私が原科シンポジウムの世話人等から聴いた事実経過は以下の通り。

1. 2013年10月末：原科氏らがシンポジウムの完全な計画を学会に提出。
2. 11月19日：領域委員会開催の当日に、理事会シンポジウムの世話人(伊藤好孝氏)が早野氏の名前が二つの提案に挙がっていることを知った。伊藤氏が早野氏に連絡をとったところ、早野氏は二つのシンポジウムを混同しており二つの計画に名前が挙がっているという自覚がなかったことが判明。
3. 11月19日：領域委員会では原科シンポジウムは採択保留となった。伊藤氏は、早野氏が原科シンポジウムの世話人に連絡をとらないよう要請した。
4. 11月30日：領域委員会で原科シンポジウムを「条件付きで採択」することが決定された。伊藤氏から連絡を受けた早野氏は、すぐに原科シンポジウムの世話人にメールを送り、理事会シンポジウムで登壇することを告げた。
5. 12月1日：領域委員長から、原科シンポジウムの提案者へ、同シンポジウムが「条件付きで採択<sup>\*3</sup>」されたとの連絡が入る。世話人は、この時点で、早野氏が登壇しない場合には代替りの講演者を見つけ、12月7日までにシンポジウムの申請書を再提出するようにと告げられた。

---

<sup>\*3</sup> 「条件」には別の登壇予定者の扱いも含まれていたが、それはこの質問状の趣旨とは無関係なので、ここでは触れない。

**■私が問題と考える点** 以上の経緯をみると、明らかに二つの問題点がある。

まず、1 とほぼ同時期に理事会もシンポジウムの計画を提出したはずなので、その段階で早野氏の名前が二つの提案に挙がっていることは容易に分かったはずである。これをチェックできなかったことが問題の発端とっていいだろう。

しかし、より重要で深刻なのは2以降の経緯である。

11月19日に、早野氏が二つのシンポジウムで講演予定になっていることが判明しても、それを原科シンポジウムの関係者には告げず、早野氏にも「口止め」をしたのは不合理である。このため、30日までの10日間以上、原科シンポジウムの関係者は（ある別の理由により）提案の採択が保留されているのではないかとだけ認識しており、早野氏の代打を立てなくてはならないということは全く知らなかったのだ。19日に事情を告げられていれば、ただちに早野氏の意向を確認し（提案が採択されるケースに備えて）もっと余裕をもって代替の講演者の打診を始めることができたのである。

もう一方のシンポジウムの提案者である理事会は、全ての事情を把握していたということは強調しておきたい。一般会員と理事会が対等である必要はないのだろうが、これはあまりに不公平である。

**■質問と要望** 以上を踏まえて、質問とお願いがあります。

質問 A：上で整理した経緯に事実誤認はないでしょうか？ 誤解があれば、お手数ですが、具体的にご指摘ください。

もし私に本質的な事実誤認がある場合には、この「質問と要望」を撤回させていただくことになるかもしれません。その場合には、事前に不明をお詫びいたします。

質問 B：1の段階で二つの提案に早野氏の名前が挙がっていることが判明しなかったのは致命的かつ初歩的なミスだと私は考えていますが、それについてはどうお考えでしょうか？ 再発を防ぐ対策を講じられているのでしょうか？

質問 C と要望：11月19日に、原科シンポジウムの世話人に全ての事情を告げなかったのは、明らかな判断ミスだと私は考えます。その点についての公式のお考えをお聞かせください。もし私と同様にミスだと判断されるなら、そのことを明確に記録として残していただくことを要望いたします。

以 上